

● みなとづくり

1 クルーズ観光の拡大による地域経済の活性化

問合せ先 港湾課

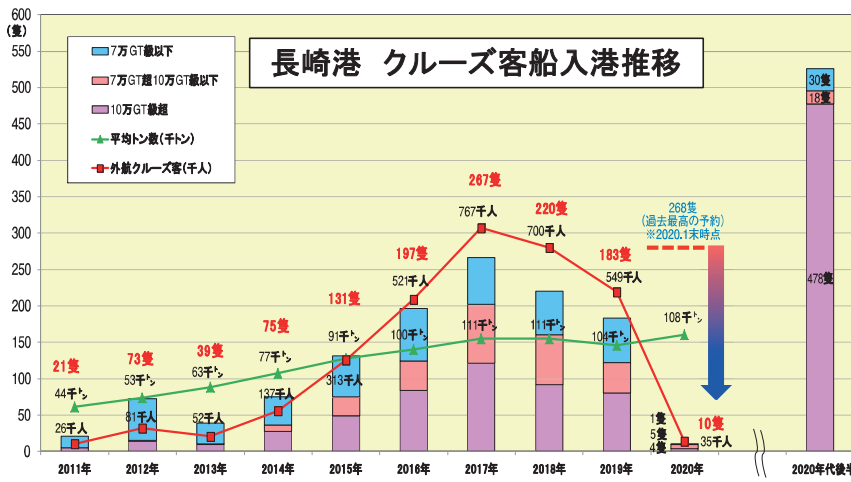
長崎港では、近年、観光産業への経済波及効果が期待できる大型クルーズ客船の入港が急増しています。令和2年度より松が枝岸壁の2バース化が新規事業化されたことから、円滑な事業環境を整えるため、関係者との調整を加速させるとともに、埠頭背後のまちづくりと連携を強化し、早期完成を目指します。

● 長崎港へのクルーズ船の寄港

2020年のクルーズ船の寄港見込みは268回で過去最多ペースでしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、10回に減少しました。

しかしクルーズ船社へのヒアリング結果では、「長崎港の乗客からの評判は高く、船舶の大型化が進む中、長崎港への需要は高い」との考えを示されており、今後も多数の寄港が見込まれます。

クルーズ客船の受入機能の強化が求められる



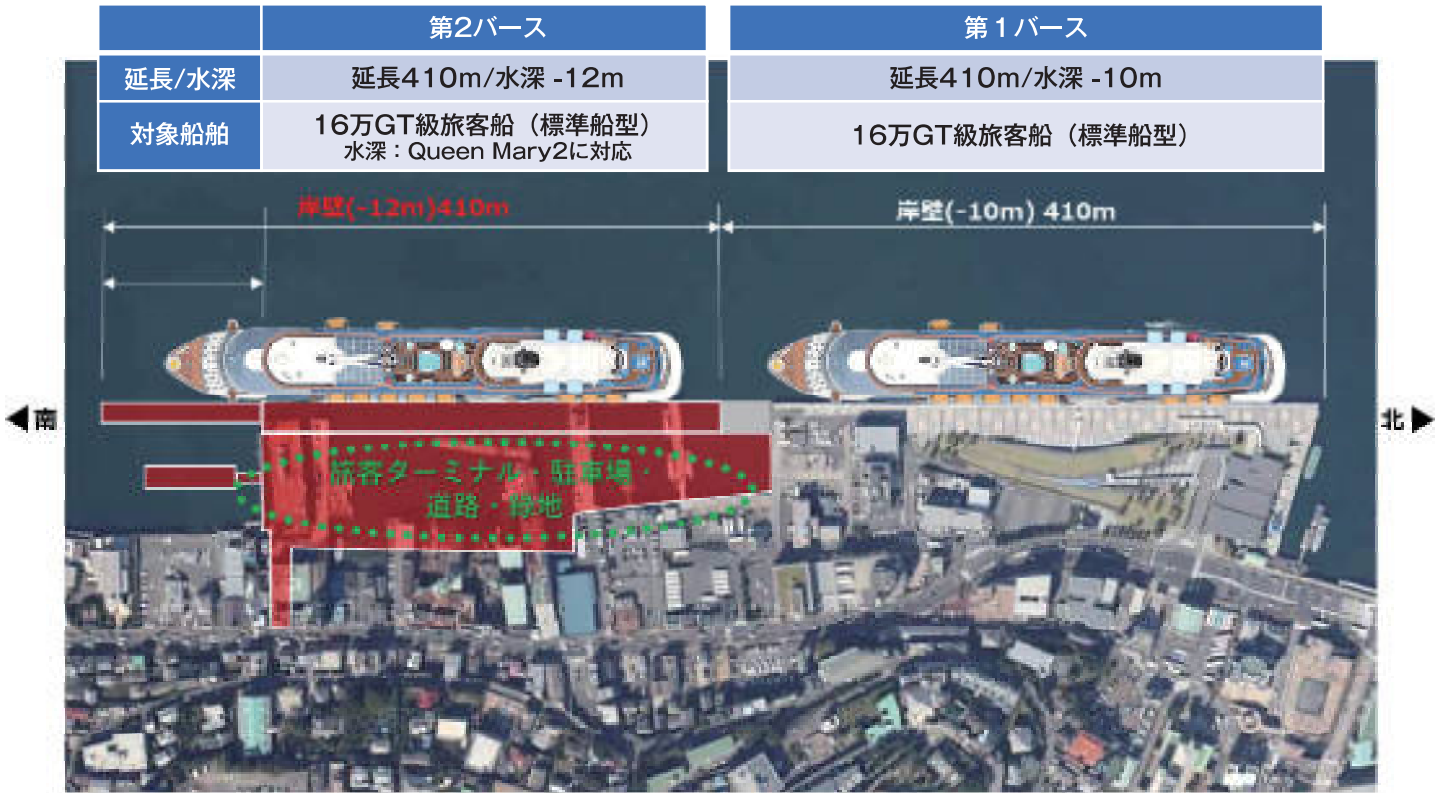
● クルーズ船の受入環境の強化

① クルーズ船の大型化に対応するため、港湾施設機能の充実を図っています。



② 令和2年度に「長崎港松が枝地区旅客船ターミナル整備事業」が新規事業化されました。

近年のクルーズ需要の増加、およびクルーズ船の大型化に対応するため、岸壁を410m延伸し、旅客ターミナル等を整備することで、更なるクルーズ船受入を目指します。



③ 松が枝岸壁背後地のまちづくり構想の検討を進めています。

- ・ 延伸する岸壁とターミナル機能等とあわせて、背後のまちなみと調和した都市空間の形成、交通結節機能等を検討し、“みなとづくり”と“まちづくり”を一体的に進めます。



各機能の位置は、あくまでイメージであり、配置等を確定するものではありません。

2 離島・半島等の暮らしを支える地域交通の確保

問合せ先 港湾課

離島と本土等を結ぶ定期航路の安定的な海上運輸活動を支え、安全・効率的で利便性が高いみなど整備を進めます。

口ノ津港の定期船埠頭整備及び地域交流拠点の形成

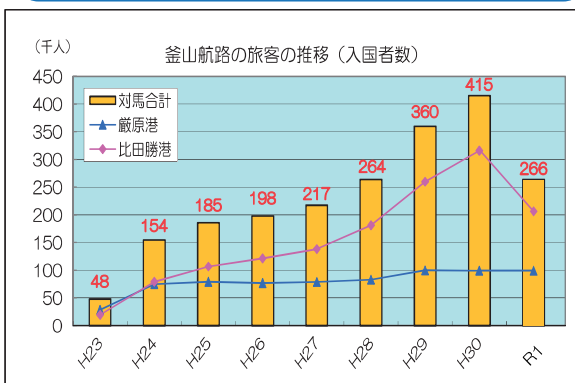


老朽化した施設を更新し、効率的で安定した輸送手段を確保するとともに、南島原地域の交流の拠点を形成する。

厳原港の埠頭再編(旅客埠頭の整備)



近年、対馬-釜山航路の利用者が著しく増加している。
※平成30年は過去最高の約41万人



現在の手狭なターミナルビル → 国内・国際を分離する

